



羽生郷土資料館だより



2013.2.15 vol.20



2月17日（日）より企画展「文殊院寺宝展」の一部展示替えを行います！

2月3日（日）からオープンした企画展Ⅱ「徳川御三卿田安家の祈願寺 文殊院寺宝展」では、田安德川家ゆかりのものをはじめとする文殊院寺宝約200点を展示しています。

その中でもひととき来館者の目を引いているのは「百布袋」（ひゃくほてい）です。100枚の布袋図が描かれ、3巻の卷子にまとめられていたものです。

長い年月を経ても保存状態もよく、このような形でまとめられているのは非常に珍しいものです。また、布袋それぞれの豊かな表情が楽しめる資料になっています。

現在、展示中の布袋図は69点ですが、2月17日（日）より一部展示替えを行い、残り31点の布袋図を展示します。この機会にぜひご覧ください。

開催期間：2月3日（日）～3月3日（日）

開館時間：午前9時から午後5時まで

休館日：毎週火曜日と2月28日（木）

入館料：無料

展示資料：百布袋、文殊菩薩の掛軸、文殊院本堂焼失前見取図等

お問合せ：☎048（562）4341



百布袋（狩野永賢筆印）



寶蓮院所持の未広扇子2握それぞれの表と裏

田安德川家を支えた寶蓮院

寶蓮院（ほうれんいん）は、田安德川家初代当主・宗武（むねたけ）の正室です。享保6年（1721）に近衛家久の娘として生まれ、同20年に宗武と結婚。田安德川2代当主治察（はるあき）らを儲け、落飾して寶蓮院と号し、天明6年（1786）に亡くなるまで田安德川家を支えた女性です。

田安德川家の祈願寺だった文殊院は、寶蓮院と関わりを持っていました。「什具書上帳」（じゅうぐかきあげちょう）によると、文殊院は毎年2月25日に祈祷を行い、寶蓮院に御札を献上していました。

両者の関わり合いを物語るものとして、寶蓮院所持の未広扇子があります。また、「寶蓮院惺池覚樓大姉」と刻まれた位牌も本堂内に置かれていました。いずれも「文殊院寺宝展」に展示され、その結び付きをいまに伝えています。



田安大奥奉納燭台・香炉



富士画（田安治察筆）